

平成26年度大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業
プログラム委員会（第1回）議事概要

日時：平成26年7月9日（水）10:00～11:00

場所：弘済会館 4階 「萩」

出席者：（委員）井上委員、梶山委員、河田委員、黒田委員、田籠委員、
西山委員、二宮委員、溝口委員

（文部科学省）佐野大臣官房審議官（高等教育局担当）、浅田高等教育
企画課長、有賀高等教育企画課国際企画室長、太田和
国際戦略分析官、佐藤高等教育企画課国際企画室専門
官、鈴木高等教育企画課国際企画室専門官

（日本学術振興会）渡邊理事、西川監事、梶山人材育成事業部長、三上人材
育成事業部専門調査役

議題

(1)「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」の成果等について

(2)「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」採択プログラムに対する事後評
価について

【質疑応答】

（黒田委員長） それでは、今説明がありました事後評価要項、事後評価調書、今後の事
後評価スケジュール等についてご意見がございましたら、どなたからでも結構です。

（河田委員） GP の時もヒアリングをしたと思います。その時に一番有効だったのは、
学生のインタビューでした。学長あるいは副学長など大学当局の説明を聞いて、これは非
常に素晴らしい取り組みだと思わされても、実際に学生に聞いてみると、そうでもなかつ
たと。大学当局が入らずに、学生だけ、この場合は留学生だけに最低5名入っていただ
くと、本音が聞けて客観的な評価ができますので、是非ヒアリングの時には学生の聞き取り
を入れていただきたいというのが一つです。

もう一つは、事後評価要項（案）3ページの「B. 総括評価」の上にあるc) について、
今後どのようにして継続的な活動が自主的・恒常的に行われることが期待できるかとい
うことについて、この事業の事後評価調書（案）で言うと13ページに、実際にどれくらい
この事業継続のための予算を準備するつもりなのか、数値、金額を是非とも書くように
していただきたいです。ヒアリングをすると「学長の裁量経費で200万円ほどできます」と
いう程度の答えがかなり多かったため、今回は13大学が財政的に豊かな大規模大学で十分
予算的措置が取れる大学が選ばれていますので、数値、金額が分かる形で、この事業の継
承が書かれるといいのではないかと思います。以上、二つお願いしたいと思います。

（黒田委員長） ありがとうございます。他にございますか。

（梶山委員） 大学から出てくる資料の話ですが、資料3で説明がありました積分値と微
分値というか、外国人教員数とか、外国にどれくらいの学生が出かけていったか等、年度

ごとの変化がありました。文章だけだと事後評価する時に結構分かりにくく、そういった表があるだけでも随分と分かりやすいので、事後評価調書もプラスでそういう資料を大学から出してもらえば評価しやすいと思います。先ほどの資料3は非常に分かりやすかったので、そういうものがあればいいなど。

(黒田委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(井上委員) 私自身、グローバル30を最初から見てきた者の一人なのですが、せっかく最後の事後評価までやるということであれば、先ほどお話がありましたようにグローバル30がある種のブランド化したという実績を踏まえて、国際化の一つの基準が明確に分かるような、定量的・定性的な分析を是非載せていただきたいと思っています。その中には、もちろん留学生や日本人学生の声も入れていかなければいけないのですが、せっかくブランド化し、通用する名称になったと思いますので、少なくとも国際化を推進する大学はこういうところを見ていながら国際化を推進していくのだという、他の大学がある意味真似できるようなものにしてほしいところです。事後評価の判断基準としてはこれで十分ではないかと思うのですが、やはり記述の方法も大学間の比較ができるように、さらには単独で見ても国際化の姿が見えてくるような、スタンダードになるような評価を是非作っていただいて、それがその後の他の大学の見本になるものにしていただければと思います。

(黒田委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(溝口委員) A. 項目別評価の中で、事業仕分けの中で言われました国際化に取り組む大学のネットワーク化という観点からの評価が、若干弱いのではないかと思います。個々の大学が、この事業を通じて国際化を進める大学とのネットワーク化にどれくらいの取り組みをしたかという評価も付け加えた方がいいのではないかと思います。

(黒田委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(田籠委員) 評価についてはではないのですが、井上委員からもご指摘がありましたように、せっかくブランド化されたグローバル30、それからスーパーグローバル大学創成支援への展開だと思うのですが、個別大学に関して言うと、大幅な国費の投入が無くなる大学も一部出るかと思っています。そういう場合にパフォーマンスが急激に落ちる、例えば外国人教員が急激に解雇されるとか、また、データを見ても、英語コースの開設数も24年から25年には増えていないという、予算が無くなることを前提とした動きが見てとれます。せっかくのここまでの実績が次にどうつながるかという国策としてのデザインが示せないで、大学の事後評価に対するモチベーションも上がってこないのではないかと思います。もちろん予算が欲しいということがあまりにも露骨に出るのはナンセンスですし、当然、各大学が独自資金で、知恵を絞って学長のリーダーシップの下で頑張っていただかなければいけないのですが、それに対して少し我々評価者側から仕掛けをしてあげて、不毛な評価にならないように知恵を絞ることが重要だと思います。当事者の意識に立てば、一部の大学からは悲鳴も聞こえてきていますので、その点をちょっと指摘します。

(黒田委員長) ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

(梶山委員) 直接、評価に関係することではないと思うのですが、最初に申請した時に、2020年でしたか、留学生30万人計画を随分と意識した申請内容になっていたと思います。例えば、えっと思うくらいの留学生の数を提示したりしていました。最初に私がお聞きしたのは、そこまで事後評価をするのか、要は30万人計画に合わせて書いてあるのだから、そこまで我々が面倒を見るのかということです。話し合いをしましたが、ほとんど結論は得ていません。おそらく各大学は、最初は30万人計画を考えながら申請書を書いたと思うのですが、今後、文部科学省が30万人計画をそのまま維持するのか、それともギブアップするのかという、文部科学省の態度もある程度重要になるのではないかと思います。

(田籠委員) 付け加えますと、30万人という数について、日本の内需の状況からして必ずしも高度専門人材で30万人は必要ありません。一方で、ミドルエンジニアや建設人材、介護福祉人材といったミドルの専門人材を養成するものを加えると、高等専門学校等も含めて30万人は国策・移民政策として必要だろうとするようなデザインの焼き直しはあろうかというのが、勝手ながら私の意見です。

(黒田委員長) ありがとうございました。

(浅田高等教育企画課長) 留学生30万人計画は、文部科学省というよりは、福田内閣の時に総理の下で関係省庁が決めたものです。その後、結構順調に伸びてきていたのが、例の東日本大震災でちょっと頭打ちとなりましたが、現時点では政府はその目標を変えていません。昨年の成長戦略である日本再興戦略の中にも、その旨は盛り込まれています。ただ、大きく決めているのは30万人ということなのですが、確かに中身はいろいろな議論があり、今ほど田籠委員からお話があったようなこともあります。あるいは、出身国・地域が非常に偏っているということもあります。そういったことについては、昨年、学生・留学生課で、単に留学生交流ということではなく、国として関係をより強化すべき国や地域との関係を留学生交流においても戦略的に強化していこう、という方針の兆しもありますので、単に数を追いかけるだけでなく、中身を考えながら進めていかなくてはならないと考えております。

(黒田委員長) ありがとうございます。今の皆様からのご意見を受けて、事務局から何かありますか。

(有賀国際企画室長) 多くのご意見をありがとうございます。まず、河田委員からコメントがございました学生からのヒアリングですが、今回は大学に来ていただいてヒアリングすることを考えております。そこに学生の声をどう反映できるかというところを、やり方も含めて検討したいと思っております。それから、事後評価調書(案)13ページの、数字で幾らコミットするかというところは、その後の検証が難しいという面もありますので、義務的に書けるかは分かりませんが、各大学にできる範囲で記載してもらうことは考えたいと思います。

梶山委員からのご指摘の、積分値と微分値、伸びといった部分の一覧表のようなものは、

大学に作ってもらうのか、日本学術振興会の方に作っていただくのかを検討したいと思いますが、審査の時に参考になるようにご用意したいと思います。

井上委員がおっしゃった件についても、今回はデータが集まりますので、それを基に、標準的なものはどんなものなのかをまとめる工夫をしたいと思います。

溝口委員からご指摘のネットワーク化のために何をしたかという点ですが、抜けているかもしれませんので、工夫させていただきたいと思います。

田籠委員からのご指摘ですが、モチベーションという意味では今回の評価を今後の事業の採択の時に参考にすることをこれから明示的にやっていきたいと思います。一つの事業をやってきちんとできていないと、次の事業につながらないという形でインセンティブになることを期待したいと思っています。

それから、今後の話として、参考資料1でお配りしたグローバル30の最初の公募要領、平成21年度の公募の段階のものではありますが、その6ページにある「4. 事業の実施」の(2)に、評価について各大学が行うべきことが整理されております。中間評価と事後評価を経て、平成32年度には大学において委員会等を開催し、もともと大学で設定した目標が実際に達成できているかどうかを文部科学省に報告していただくということがあります。私どもとしても、ここでデータを集めた上で、もう一度公表するなりの形でフォローアップをしていきたいと思っております。

(黒田委員長) ありがとうございます。他にご意見よろしいでしょうか。それでは、これをまとめたいと思いますが、今、皆様から出されたご意見を評価項目に入れるということになると、修正が必要となります。これを私に一任いただいて、事務局と相談しながら直させていただきたいと思いますが、ご了承いただけますか。

<委員了承>

(黒田委員長) それでは、そのようにさせていただきます。ただいま決定させていただきましたが、文部科学省及び日本学術振興会においては、本日頂戴いたしましたご意見を踏まえて、事後評価の準備を開始していただきたいと思います。なおかつ公平公正な評価ができますようお願いします。

以上で、公開の議事は終了させていただきます。以後の評価部会委員の選考に関する審議につきましては、最初にご確認いただいた審議の進め方に基づきまして非公開とさせていただきますので、傍聴者の皆様はご退室をお願いいたします。

傍聴者退室

(3) その他 (非公開)

(非公開議事のため未掲載)

議事終了